



談話室



『新しい交通基盤の有無は、地域の盛衰を決する』
～ 空港のある静岡県へ向けて ～

1 改めて静岡空港の意義

< 静岡県の地域戦略上、重要な社会資本 >

静岡県は、日本列島のほぼ中央に位置し、東海道新幹線や東名高速道路等の高速交通網が全国に先駆けて整備されました。その地理的優位性から、全国有数の「ものづくり県」「観光県」として、交流をベースに繁栄を享受してまいりました。

製造品出荷額(全国第5位)、観光入込客数(全国第4位)、旅館営業所数(全国第1位)

しかし、全国的に、新幹線、高速道路、空港等の高速交通網の整備が進む中で、静岡県の立地優位性は薄れてきています。

また、地球規模で「人、もの、情報」が活発に行き交う大交流時代にあって、海外との交流状況をみると、台湾や韓国における海外旅行の自由化などにより、アジア地域から日本を訪れる観光客は大幅に増加しており、成田や、関空などの主要空港だけでなく、国内の20を超える地方空港からも国際便が就航しています。

このような状況を見据えると、今後、静岡県が、国内での地域間競争や地球規模の競争に耐え得るのか、産業構造の空洞化が一層進んでしまわないのか、県民全体で真剣に考えなければなりません。

静岡空港は、県民の利便性を向上し、本県の地域経済力を高めるとともに、文化・スポーツの振興、災害時における緊急物資や被災者の輸送拠点など、多くの役割を担っています。

静岡県の活力を維持し、魅力ある地域づくりを進める上で、静岡空港は欠かすことのできない社会資本として整備を進めているのです。

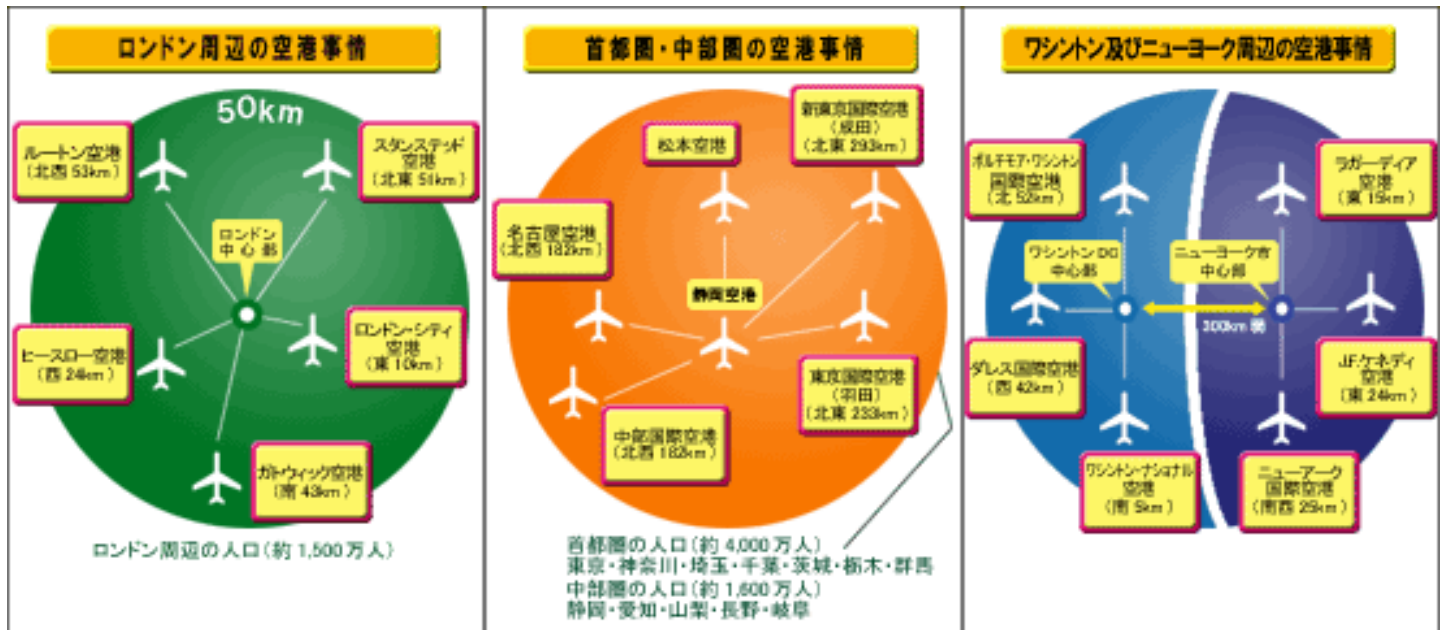
< 静岡空港により我が国の空港事情を先進国並の水準へ >

静岡県を含めた中部圏の人口は、約1,500万人です。ロンドンの大都市圏の人口が、約1,500万人と同じ規模ですが、ロンドン周辺には5つの空港が整備されています。

また、ニューヨークとワシントンの距離は300km弱ですが、この両都市の周辺には、それぞれ3つ、合計6つの空港があります。

我が国の現状と比較して見ますと、首都圏、中部圏の空港事情は、先進国の人口や産業が集積している地域と比べてみると、明らかに劣悪な状態にあるのです。

大交流、大競争時代を迎えて、東アジア圏を中心とした海外と、一層の交流を進めていく上でも、我が国の首都圏や中部圏の空港事情を改善することは、喫緊の課題です。静岡空港が首都圏空港の代替としての役割を担うことにより、我が国の空港事情を先進国並の水準に高めることも期待されています。



[クリックすると拡大画像が見られます。](#)

< 県財政への影響 >

静岡空港の建設費は、飛行場490億円に、周辺アクセス道路、農業振興対策等を加えて、総額約1,900億円を見込んでいます。平成15年度当初予算までの額は、総額1,423億円で、全体の74.9%を執行していることとなります。

また、空港の維持管理費は、年間約5億2千万円程度と見込まれます。これは県立高校1校分の維持管理・運営費より少なく県立美術館とほぼ同じ額です。また、需要予測結果を基にすると、国内線・国際線合わせて6億7千万円程度の収入を見込んでいます。

なお、収支だけで議論されがちですが、空港は社会資本としての意義を有しています。空港があることにより、新しい産業や雇用の創出、工場等が撤退しないなど空洞化の抑止、県民の皆様の空港への接続費用や時間が大幅に節減されるなど、収支には計上されない多くの間接的な効果があります。このようなことを全体的にとらえれば、空港は、静岡県の地域経済に多くの便益をもたらすこととなります。

[《トップページ》](#)

- 1 [改めて静岡空港の意義](#)
- 2 [需要予測を巡る議論](#)
- 3 [時代の主流となる交通基盤の有無は、地域の盛衰を決する](#)
- 4 [残された用地の解決に向けて](#)
- 5 [今なすべきこと](#)

[談話室](#)

[知事室トップページ](#)